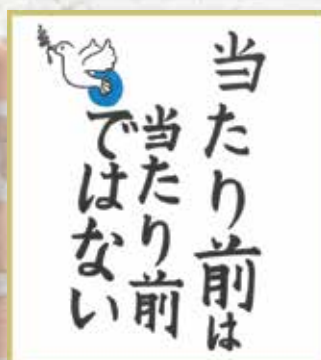
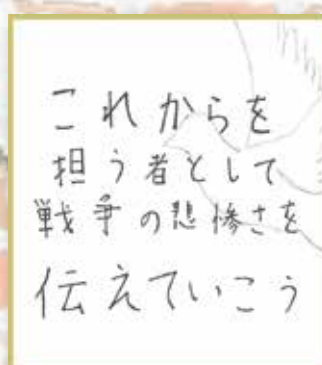




全体メッセージ

今回の平和の旅を通して、明日(未来)へ向かって平和の「ひ」を守り繋げていきたいと思った。
「ひ」を平仮名にしたのは、灯(ともしび)や陽といった、色々な考え方をすることができるよう考えた。

個人メッセージ



【発行】 令和7年 11月 中野区
【担当】 企画部企画課平和・人権・男女共同参画係
電話 03-3228-8229



令和7年度 中野区 平和の旅 報告書

若者が紡ぐ平和の物語

次世代向け広島平和学習中学生派遣事業



02 はじめに

03 事前学習会

04 広島派遣

08 事後学習会

09 作文集

裏表紙 平和メッセージ

はじめに

平和を未来に紡ぐために 次世代のみなさんが学びました

終戦から80年が経過した今、私たちは改めて「平和とは何か」を問い直す時を迎えています。世界に目を向ければ戦争や紛争が終息する様子は見られず、日本を含む国際情勢の緊張は高まり続けています。

今回の平和の旅は、「若者が紡ぐ平和の物語」というテーマのもと、平和とは何なのかを改めて考えるとともに、平和の大切さを未来を紡ぐ次世代のみなさんと学びました。

平和の旅に行く前の事前学習会では、戦争が現代にまで残した傷跡や影響について学ぶとともに、広島での被爆者である語り部による被爆講話や、広島平和記念公園に建立されている「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの甥御さんによる講話を聴きました。

事後学習会では、参加者それぞれが、平和の旅を通じて学んだことを踏まえ、「自分にとっての平和メッセージ」を作成しました。

平和の旅全体を通じて、参加者一人ひとりが、「平和とは何なのか」について自ら学び考え、未来へ紡ぐことができるようなプログラムを実施しました。しかし、平和の旅で全てを学ぶことは不可能です。大切なのは、ここで得た知識や体験をきっかけに、今後の人生の中でどのように平和を学び、活かしていってくれるのかだと思います。

この報告書を通じて、多くの方が平和の旅における生徒たちの体験を共有し、平和を次の世代へ紡ぐため、未来に向けた一歩を踏み出していいただければ幸いです。

令和7年11月

憲法擁護・非核 都市の宣言

まちにはこどもの笑顔がある
ひろばには若者の歌がある
ここには私たちのくらしがある

海を越えたかなたにも
同じ人間のくらしがある

いま地球をおおう 核兵器は
あらゆるいのちの営みを
このしあわせを奪い去る

私たちの憲法は
くらしを守り自由を守り
恒久の平和を誓う

私たちはこの憲法を大切にし
世界中の人びとと手をつなぎ
核をもつすべての国に
核兵器をすてよと訴える

この区民の声を
憲法擁護・非核都市中野区の
宣言とする

昭和五十七年八月十五日

中野区

事前学習会

2025.07.22

日時 令和7年7月22日（火）／13:30～16:30

場所 平和資料展示室（中野区立総合体育館内）

プログラム

- 1 自己紹介
- 2 語り部（広島での被爆者）による被爆講話
- 3 平和についてのグループ学習
- 4 佐々木祐滋氏による平和に関する講話
- 5 折り鶴プロジェクト参加



今年はこの10人で学んでいます！

平和の旅が復活して3年目となる今年度の「平和の旅」には、区内在住・在学の中学2年生10人が参加することとなりました。



語り部による被爆講話

語り部の家島さんは3歳の時に広島市牛田（爆心地から2キロ）で被爆しました。現在は各所で講演会など原爆の被害を語り継ぐ活動を行っており、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が2024年にノーベル平和賞を受賞した際には、代表団の一員として授賞式にも出席しました。



佐々木祐滋氏による講話

広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの甥である、佐々木祐滋さんにお話しを聴きました。平和の象徴ともいえる「折り鶴」と佐々木禎子さんに関するお話しをしていただきました。



訪問先紹介とグループ学習

実際に広島で訪れる場所の紹介と、平和に関するグループ学習を行いました。原子爆弾による被害、現代にも残っている戦争の爪痕等の学習、同じ事実に対する受け止め方の違いについて、みなさん一生懸命に考えてくれていました。



穂ヶ丘高校のみなさんから
寄贈された千羽鶴 ▶

折り鶴を折りました

学習会の最後に参加者のみなさんで折り鶴を折りました。参加者のみなさんが折った折り鶴は「折り鶴プロジェクト」において区民の方々が折っていただいた折り鶴に加え、都立穂ヶ丘高校の生徒さんが学習の一環で作成し区に寄贈してくれた千羽鶴と一緒に、広島平和記念公園の原爆の子の像に献納します。

平和の旅参加者が中野区を代表して、区民の方々の平和への祈りをしっかりと原爆の子の像へと繋げていきます。

事前学習会において、参加者それぞれの中でいろいろな疑問が湧いてきたようでした。平和の旅当日までの間、それぞれが調べ、今度は現地でしっかりと学んでいます！

- ① 7:00
中野区役所前にて集合、出発
新幹線内で昼食（お弁当）
- ② 12:00
広島駅到着
- ③ 13:00
呉駅到着
- ④ 14:00
呉港艦船巡り
- ⑤ 14:45
てつのくじら館見学
- ⑥ 18:00
ホテル到着（広島駅直結）
- ⑦ 20:00
振り返り学習会

① 区役所前で集合



みなさん、事前学習会後から平和の旅当日までの間、平和について考え・調べ、自分には何ができるのだろうか等イメージし、広島への思いを胸に抱きながら、出発の日を迎えました。早朝とはいえ真夏日となった当日でしたが、無事に出発することができました。



新幹線の車中



お昼ご飯のお弁当
しっかりと食べて
暑さに備えます！

② 新幹線で広島駅に到着



⑤ 振り返り学習会

広島市内のホテルに到着し、夕食後に、1日目の振り返り学習会を行いました。



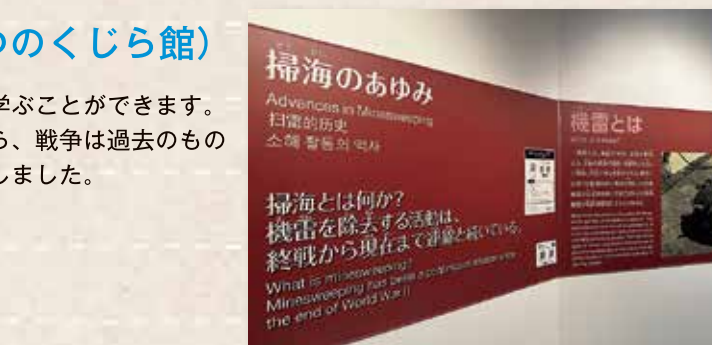
③ 呉港艦船巡り

昨年・一昨年は「大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）」を訪問し、呉市において建造された戦艦大和を10分の1に忠実に再現した展示を通じて造船・製鋼を始めとした各種の「科学技術」を学んでいましたが、現在リニューアルのため休館中です。そのため今年は実際の艦船を間近に見ながら、日本の近代化とともに歩んだ「呉の歴史」と、当時の造船技術がいかに戦後の日本のものづくりの歴史につながっているのかを学びました。



④ 海上自衛隊呉史料館（てつのくじら館）

「てつのくじら館」では、潜水艦と掃海作業について学ぶことができます。戦時中に海に撒かれた機雷が今でも残っている現実から、戦争は過去のものではなく、現代にもその傷跡を残していることを実感しました。



参加者からは「戦後の人々の平和のために掃海作業というものがあることを知った」「以前沖縄の平和記念資料館に行ったことがある。明日は広島市の平和記念資料館で沖縄と何が違うのかを学びたい」「今回の旅は事実を深く知る機会だけど、見るだけではなく、明日この目で確かめて、家に帰ってからもこの経験を生かして、忘れることなく、他の人に伝えていけるようになりたい」「今日は知識として知ることがテーマだったが、明日は実際に悲劇があったことを感じるということに視点を置いて学びたい」等たくさんの意見が出ました。当日の学びを踏まえた上でのグループワークも実施し、座学として学ぶことと同時に、現地で生の情報に触れることの重要性を再認識しました。

- 8:00
ホテル出発
- ⑥ 8:45
平和記念資料館見学
(イヤホンガイドあり)
- ⑦ 10:30
平和記念公園内の碑巡り
(ボランティアガイドあり)
- ⑧ 11:45
本川小学校平和資料館見学
- ⑨ 12:30
むすびのむさし土橋店にて昼食
- 14:15
広島駅出発
- ⑩ 19:00
中野区役所前にて解散



⑥ 広島平和記念資料館

広島平和記念資料館では、原子爆弾が燃え広がる様子を映し出すCG展示や、被爆したまちの残骸から原子爆弾の威力を学習しました。実際の遺品の展示や、目を背けたくなるような写真もありましたが、参加者は展示を見つめながらしっかりと学んでいました。



佐々木禎子さんについての展示



原爆によって一変した
広島市内の風景



⑦ 広島平和記念公園（碑巡り）



広島観光ボランティアガイドによる説明を受けながら、公園の碑巡りをしました。教科書などで見たことがある場所も、改めて現地を視察して説明を聞くと学ぶことが多かったようです。



原爆の子の像では「折り鶴プロジェクト」で区民の方々に折っていただいた折り鶴で作った千羽鶴を献納しました。区民の方々の平和への願いは、平和の旅参加者が中野区を代表してしっかりと広島へと繋ぎました。この千羽鶴には、事前学習会において平和の旅参加者が折った折り鶴も含まれています。



原爆死没者慰霊碑に献花を行い全員で合掌



⑧ 本川小学校平和資料館

当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りの校舎でしたが、爆心地から至近距離の410メートルで被爆しました。当時の校舎の一部がそのまま保存されており、この建物自体が戦争の悲惨さと平和の大切さを訴えているようでした。



⑨ 昼食

むすびのむさし土橋店にて
広島名物お好み焼き



⑩ 区役所前で解散

2日間でたくさんのことを学びました。片道約4時間の長旅だったので、しっかりと体を休めて、事後学習会でまた会いましょう。



中野区役所 | 中野区議会
東京都第三建設事務所



今までに学んだこと、考えたことを振り返りました

平和の旅後の令和7年8月7日、再び平和資料展示室に集合し、事後学習会を実施しました。

事前学習会から始まり、旅当日、その後自ら学んだことについて、改めてみなと共有しました。時間が経って、参加者が「相手に伝える」ことを意識しながら発していた言葉が、それを聞いている一人ひとりに新たな気づきを生んでくれているようでした。

プログラム

- 1 旅の振り返り
- 2 平和メッセージ 作成・発表



平和メッセージ

平和のために自分たちは何ができるのか・どうしたら平和になるのか、みなで話し合いながら、参加者それぞれが伝えたい「平和メッセージ」を考え、その思いとともに発表しました。

（1名都合により欠席）



平和について
何を思い
何を感じて
どう考えたのか
それぞれに言葉を紡いでもらいました

作文集



平和の尊さ

河田 康生

僕は平和の旅で2日間平和について学びました。

僕が平和の旅で一番圧倒された場所は広島平和記念資料館です。平和記念資料館では、原子爆弾が投下された当時の広島の様子や、原爆の恐ろしさを伝える展示、被爆者の遺品などが展示してあります。その広島平和記念資料館では本当に残酷な展示がたくさんあり、見ていたら心が裂けそうになりました。被爆した直後の広島を写した写真を見ると原子爆弾があっという間に広島を焼き尽くしたのだと考えるとすごく怖いです。そして被爆した人の写真を見るとなぜ関係ない住民たちが死ななければならなかったのかという気持ち浮かび上がってきます。さらに、被爆者の後遺症がとても苦しかったのだと考えました。事前学習会では佐々木禎子さんが白血病で12歳の若さで亡くなるということを知ったので原爆は残酷な爆弾なのだ改めて強く思いました。

僕が広島に行ったあとに考えたことは平和は当たり前ではないということです。今世界を見れば戦争や内戦をしている国があります。ロシアのウクライナ侵攻などです。僕はその戦争などをできるだけ早く終わらせてほしいと強く願っています。そして身近で見るといじめなどがあります。いじめは頻繁に起こるもので集団ではなく個人の心を苦しめるものです。これは戦争ではありませんが小さな戦争だと思っています。

そして僕はもう二度と原子爆弾などの核爆弾を使用した戦争は起こってほしくないと思っています。その理由は原子爆弾の恐ろしさを知ったからです。原子爆弾は一瞬で街を焼け野原にして、人々を苦しめるからです。だからそういう願いを込めて平和記念資料館を作ったのだと考えました。そして原爆ドームもほとんど被爆後の原型を保っています。それは原子爆弾を二度と使ってほしくないという思いが込められているのだと思います。「平和」というものは人々が安全に楽しく暮らせるものだと思います。その「平和」を壊さないように自分から積極的に広めていきたいと思っています。



小さな思いやりが
平和への一歩



平和の旅で学んだこと

河部 凜

そもそも、私は平和について戦争を経験したことのない自分が語って良いのだろうかと思っていました。

軽々しく、重いテーマを語る、ということにならないか。

2日目、平和記念資料館に赴いたあと、その問いの手がかりが見つかったような気がしました。

初めて見るような凄惨な写真や、遺品の数々を目にして、戦争の残酷さを改めて思い知りました。

既に戦争をしてはいけないことなんて知っていたはずなのに、強い衝撃を受けました。

平和記念資料館でしか得られない経験は、大量にありました。

他の場所では手に入れることができない知識も大量にありました。

水を飲めると気力を失って死んでしまうから、今にも死にそうで水を欲しがる人に水を与えてはいけなかった。

これが、特に記憶に残ったエピソードです。

また、今、被爆者の方が亡くなり続けてるという話を伺いました。

既に平均年齢は80歳を突破しているとも。

伝えることの重要性和、それが現在ますます困難になっていっていることは、私の心の中に残っています。

そして、今年の平和記念式典も、現地ではないですが、見ました。

今年11歳の人最年少の語り部をしているそうです。

私に伝えられるのか。それは、まだ分かりません。でも、私が伝えて良いのか、という問いには頷けるようになりました。

確かに、11歳の語り部の人は広島出身で、私より色々なことを知っているでしょう。

でも、伝えることに年齢は関係ないと思います。この平和の旅を通じて、思うようになりました。

世界には、今も戦争で苦しんでいる人がいます。

平和の旅に参加して、より強く戦争の悲惨さや絶対にやってはいけないということを感じるようになりました。

軍で戦っていた人々も国に残っていた人々も、同じように苦しんでいたのだと思いました。

日本だけではなく、世界の人々にも、伝えていく必要があると思いました。



これからを担う者として
戦争の悲惨さを伝えていこう



明日を笑顔で迎えよう

善財 愛結

～ 平和の旅に参加して ～

広島への平和学習に参加し、戦争の悲惨さと平和の尊さについて深く考える機会を得ました。まず、艦船巡りでは、今もなお海の底に多くの爆弾が残っており、自衛隊が掃海作業を続けていることを知りました。戦争は過去の出来事ではなく、今もその影響が続いていることに驚きました。てつのくじら館では、実際に使われていた潜水艦や魚雷を見学しました。技術の高さに感心する一方で、それが人を傷つけるために使われてきた事実を思うと、複雑な気持ちになりました。

また、平和記念資料館では、被害に遭った子どもたちの遺品が展示されており、多くの幼い命が奪われた現実には胸が痛みました。特に、お弁当や衣服など、日常を生きていた子どもたちの姿が思い浮かび、戦争がいかに突然、人々の生活を奪ったのかを実感しました。さらに、本川小学校平和資料館では、朝礼中に原爆が投下され、生存者が児童一人だけであったことを知り、言葉を失いました。原爆被害の模型も見て、その破壊力の大きさに強い衝撃を受けました。

今回の学習を通して、戦争の悲惨さと平和の大切さをあらためて感じました。平和は当たり前のもではなく、一人ひとりが守っていかなければならないものです。私たちができることは小さなことかもしれませんが、しかし、争いを避け、人を思いやる行動を重ねることが、未来をつくる第一歩になるのだと思います。私は、まず家庭を大切に、家族みんなが笑顔で過ごせるよう心がけたいと考えています。その積み重ねが、平和な社会につながるのではないのでしょうか。

争いのない世界で、誰もが安心して眠り、目覚めたときに笑顔になれる。そんな「明日」を、みんなでつくっていききたい。今できることは小さくても、平和を願う気持ちは大きな一歩になる。言葉、行動、思いやり。それが、世界を変える力になる。だから

「明日を、笑顔で迎えよう。」



明日を笑顔で迎えよう

「戦争」という過ちを繰り返さないために必要なもの

高橋 佑征

終戦から80年という節目を迎えた今もなお、「戦争」が繰り返してしまおうのか、何度も残酷な現実を目の当たりにしている人間がたくさんいるのに何故同じ過ちを犯してしまうのかを知るために「平和の旅」への参加を希望しました。実際に戦争を経験した方々や間接的に戦争に関わった方々の話を聞き、自分の目で見て、心に感じたこと、そして考えたことについて報告していきたいと思います。

事前学習で佐々木禎子さんのお話を甥である佐々木祐滋さんから聞きました。禎子さんは被爆により、突然体調が悪くなりました。病院からは大きな病気ではないと診断されていましたが、のちに白血病と知ることとなります。病院は白血病と知っていたにも関わらず情報を隠蔽したのです。禎子さんは、自分が置かれている状況から白血病であることに気が付いていました。そんな状況でも、禎子さんは毎日千羽鶴を折りそれを心の支えにして、家族には一言も弱音を吐かなかったそうです。私は自分がこのような状況になった時、こんなに冷静でいられるのかと考えました。きっと今の自分では、禎子さんのような振る舞いはできないと思い、その辛抱強さと家族に心配をかけたくないという気持ちだったのではないかと考えると切なさを感じました。

8月1日、実際に原爆が投下された広島へ訪問しました。原爆ドームや平和記念資料館を訪れましたが、そこには写真や動画では表せないような特別な雰囲気がありました。原爆ドームでは、爆心地からわずか200メートルほどしか離れていなかったのにも関わらず、今もなお当時の面影を残していることに驚きを感じました。高熱で赤く変色していることから、当時の原爆のすさまじい威力を想像できました。平和記念資料館では原爆の遺品を見学しましたが、特に印象に残ったのは座っていた人の影が残る石の階段です。この階段は銀行の開店を待っていた人が上に座っていたことで座っていた部分が影として残ったのです。これを見て私は戦争の痕跡の生々しさを感じました。広島で訪れた2つの戦争の痕跡は8月6日の惨状を伝え、こんなことが2度とあってはならないと肝に銘じるものでした。

最後に、この平和の旅を通して私は「戦争はある一方面的な解決にしかない」ということを学びました。なぜなら、勝っても負けても多大な尊い命が奪われ終戦しても表面上は戦争が終わるだけで国民の心の傷やその爪痕は永遠に残るからです。100年後の人々が安心して過ごせる未来を創るためにも、私たちは決して戦争をしてはならないのです。「戦争」という同じ過ちを繰り返さないためにも、私たち一人一人が『相手を尊重し、相手を認める心』を必要としているのではないかと思います。



命は人のものじゃない
自分の未来を創るもの



平和を知るそして伝える

武田 隼侍

今回、私は一泊二日の平和の旅で広島に行ってきました。応募動機は「不死身の特攻兵」や「樂園のゲルニカ」などの漫画を読んだことがきっかけで、人が戦争によってどのような影響をもたらしたのか興味が湧いてきたからです。

一日目は、呉市に行きました。呉市は現在海上自衛隊の基地になっています。戦争時は、海軍の基地になっており、戦艦大和が作られた場所でもあります。そこでは、船に乗り護衛艦や潜水艦を見ました。そして、この日は131年ぶりに来航したスペインの戦艦が母国へ帰航する姿をたまたま見ることができ嬉しかったです。他にも、てつのくじら館に行き実際の潜水艦の中に入ることができました。使われていたベッドで寝てみると、狭く圧迫感がありました。自衛隊の皆さんは多いときは何ヵ月も生活するそうですが私には耐えられる気がしません。

二日目は、広島市の平和記念公園に行きました。最初は公園内にある資料館で広島に落とされた原爆の破壊力を知りました。そして、人がひどい火傷をしている写真や死ぬ間際の声の聴き、とても心が痛みました。次に公園内を歩き、原爆ドームが裏で金属を入れて崩れないようにしているのを知って、大切にしていることに気づきました。ほかにも、事前学習で作った鶴を原爆の子の像に捧げ平和を祈りました。最後に本川小学校に行き、朝の朝礼時に被爆したことを知りました。もし自分が朝礼途中に爆弾が降ってきたらと思うとゾッとします。

この色紙に込められた思いは、いつ死ぬか分からない人生を大切にしたい。もしかしたら今死ぬかもしれない、その時後悔のないように思いたいということです。

今回の旅で、戦争は人に戦争が終わってもダメージを与え続けることと、被爆した建物や資料館があって平和を大切にしていることがわかりました。平和の旅で平和について学べることができ、とても光栄に思います。これからも平和を願いそれを伝えたいと思います。



今を大切に生きる

平和のために戦争を知る

原田 翔

私は平和について知るには戦争について知らなければならないと思ってこの平和の旅に参加しました。

平和の旅に参加して考えさせられた事が三つあります。一つ目は戦争についてです。私達は広島に行って戦争についていろいろ学びました。初日に訪れた「てつのくじら館」で日本の海に眠る機雷の存在を初めて知りました。機雷とは地雷のように水中に仕掛けられる爆弾の事です。第二次世界大戦中、機雷は安価であるため日本の海に大量に投入されたようで日本の海にまだ残っているとか。驚くことに今も日本で機雷を片付ける掃海作業が続けられています。そうした現在も日本に残っている戦争の被害を知り驚きました。

広島平和記念資料館などでは、被爆した町の残骸、原爆の威力、被爆者の遺品、被爆した町などの写真、CGで原爆が落ちる前の広島に原爆が落ちて一気に焼け野原になる映像を見ました。また被爆者の方の話などを伺いました。他にもこの戦争の被害者が日本人だけでなく日本にいた外国人も大勢いたことを知りました。私はこの旅や学習会を通して、戦争とは全員同じ人間なのに殺し合う事なのだとしひしと感じて悲しくなりました。

二つ目に考えたのは平和についてです。私は平和とは誰もが対等に話し合えることだと思います。平和の対極にある戦争とは、互いが争う事でメリットがあると思うから起きている事であり、それを解決できる方法を、両者が話し合いで模索できれば戦争せずに済むと考えます。難しいことかもしれないけれど私達はみんなの平和のために話し合うことをあきらめてはいけないのだと思いました。

三つ目は平和と戦争をみんなに伝えることの大切さを考えました。なぜかというと、戦争のことがちゃんと新しい世代に伝わらないと前と同じ失敗を繰り返してしまうかもしれないと考えるからです。戦争で生まれる悲惨さ、惨劇をみんなで後世に伝えていかないといけないと思います。

最後に、私はこの平和の旅で学んだこと、考えた事を色々な人に伝えたいです。そして自分が考える平和のため、未来のため、誰もが対等に話し合える環境を自分なりに作っていきたいと思いました。



明日のために過去を学ぶ

人間なら戦争は止められる

星野 桜子



当たり前は当たり前ではない

私の初広島は小学6年生の時で、今回の平和事業参加で広島訪問は2回目となります。平和資料館での衝撃は初回から色褪せることなく、今回も全ての展示に心を打たれました。今回は私にとって特に「なぜ人間は戦争を繰り返すのか？」を強く考えさせるきっかけとなりました。このことを家族と話す中で「争い」は人間だけではなく微生物にも見られること、「争い」は生物に元々備わる性質であることを父から教わりました。私はこの事実に驚いたのと同時に、人間の戦争が生物の性質から引き起こされるものかもしれないと思うと悲しくなりました。なぜなら「争い」は生物が本来もつ特性ならば、抗うことは難しいからです。でも、人間ならば生物の性質を超越して戦争を止められると私は信じています。私がそう信じるのは平和資料館での体験にあります。私は資料館に訪れた外国の方に、展示を見てどう感じたか、今もどこかで起きている戦争についてどう思うかを質問してみました。答えは私の思いと同じで、80年前の広島での悲劇を二度と起こさせない、戦争を絶対に繰り返してはならないというものでした。この強い思いを初めて出会ったばかりの方と言葉の壁も超えて、一瞬のうちに共有・共感できたことは、私に勇気を与えてくれた最高の体験でした。

一方が絶滅するまで争う微生物のように、人間は絶対にならない。微生物と同様に、人間の戦争が自分達の繁栄が目的だったとしても、人間ならば「戦争」や「争い」は止められると私は広島での体験で確信しました。それらを抑止するのに必要な「理性」を芽生えさせるには、何よりも平和に対する共通の思いが不可欠だと考えます。日本に来てくださる外国の方や自国の若者に、私はもっと共感の輪を広げていきたいです。そしてこれからも私がその先頭に立って、「人間ならば争いを無くして平和を勝ち取れる」ということを訴え続けたいです。



未来に伝える

結川 正完



「悲劇」だけでは終われない
未来があるから伝えたい

この度私は1泊2日の平和の旅を通して広島の深い歴史を学び、改めて命の大切さ、争いの儚さを身近に感じました。また、とても有意義な時間を大切な仲間たちを過ごすことができたとても良い時間でした。

1日目、広島に着いた私達は船に乗り実際の艦船を間近に見るという特別な体験をすることができました。日本を守る自衛隊の技術を活かした日本独自の型の船や、世界中でも珍しい機能を搭載した潜水艦などは、本当に圧巻でした。説明をしてくださった方の、「これらの様な技術によって、私達が安心して暮らせる生活の基盤が作り上げられました。」という言葉が印象的です。その後、てつのくじら館へ向かい機雷について学びました。機雷の中でも船に当たって爆発する機雷もあれば、磁力に反応したり、船の振動で反応する機雷など、さまざまな種類の機雷があることに驚きました。

2日目は平和記念資料館や平和記念公園、本川小学校へ訪れました。特に、平和記念資料館では入っていくにつれ、雰囲気がどんどん暗くなっていきまるで自分が過去にタイムスリップしているかのような感覚になりながら展示室へと足を踏み入れました。そして、そこで見たのは原爆によって何もかもが無くなった広島での街でした。建物は灰となり、人の姿も全くみえなくなっているすこし不気味な雰囲気でした。そこで広島で起きた出来事の深刻さを改めて悟りました。次に、被爆によって負傷した人達の写真やその様子を表している絵などが展示されており、負傷者の写真を見ると軍人だけではなく、民間の老若男女全ての人達の痛々しい姿がありました。被爆によって負傷した人達の目は苦しみに耐えきれず、助けを求める様に私達をみているようでした。私はとても虚くなりました。他にも被爆者が残した手紙や物語が展示されており、どれも心を痛めるものばかりでした。平和記念公園では被爆アオギリや「原爆の子の像」などの平和を象徴するものがたくさんあり、平和を強く願う熱い思いが伝わりました。

私は改めて、この旅を終えて、この出来事を「悲劇だった」だけでは終わらせてはいけないと思います。この平和が永遠に続く日まで未来への希望を持続けるため、私は声を上げて伝えていきます。



平和な世の中へ

渡辺 暖乃香

私の通う学校では平和について学ぶ時間があります。戦争などの世界的な問題などについて考えます。戦後80年の節目に、原子爆弾が投下された広島を自分の目で見て平和について考えたいと思い「平和の旅」に参加しました。私は今回の旅で初めて広島を訪れました。今まで知らなかった戦争のことや原爆の残酷さを知り沢山のことを考えさせられました。

1日目の「てつのくじら館」では、原寸大の機雷を見てその大きさに驚きました。現在も戦争で使われた機雷が海に残っており、掃海(機雷を除去する作業)が行われているそうです。最終的な処理は人の手で行われている事にも驚きました。80年前に使われた兵器が今も存在し、私たちに危害を加える可能性があることに戦争の恐ろしさを感じました。

2日目の「広島平和記念資料館」では、被爆者の服や持ち物などの展示を見ました。被爆により命を落とした人は約14万人と言われているが、その人たちの生きていた姿を感じました。死没者の名前や写真、遺族の証言が個人の姿を想像させ命の重さが伝わってきました。座っていた人の影が焼き付いた階段も残っており、資料で見てそういうものがあると知っていましたが実物を見て強く印象に残りました。

原爆投下前と後の上空から見た広島市の変化にも驚かされました。一瞬で街を壊す核兵器が80年前でこの威力だと考えると、現代に起きたら日本がなくなるのではないかと思います。今の自分と重なるような感覚になり、改めて核兵器の恐ろしさを感じました。核兵器は一瞬で町や人の命を吹き飛ばし、残された人たちもずっと苦しめるものです。私は核兵器廃絶を目指さなければならないと考えます。

来年の修学旅行で私は長崎に行きます。事前学習で同級生に広島での学んだことを伝えて、更に知識を深めたいと思います。戦争をなくすことなど世界の問題は自分にはどうすることも出来ませんが、戦争を知ることや平和について考えて続けていきたいです。



当時の現状
伝え繋げる

あたり前じゃない笑顔

渡邊 ひまり

私が広島で学んだことで、一番印象に残っているのは自分たちが普通に生活して笑顔でいられるあたり前はあたり前ではないということです。

私たちは、広島の平和記念資料館へいきました。そこでは、原爆がおとされ必死に逃げている人たちの姿、今の私たちの身の回りでは考えられないほど悲しい出来事が書かれていました。私と同じくらいまたは、それよりも小さい子供たちは楽しそうに暮らしていたのに原爆が落とされてしまったことでその私たちにとってのあたり前にできることさえも奪われてしまっていました。

私はその光景を写真でみて、「なんて悲しいことなんだろう」と思いました。それと同時にこんな悲しいことはもう二度とおこってはいけない、私達はきちんとそれをおぼえておかないといけないと深く思いました。そんな中てつのくじら館にいったときに、そこでは潜水艦の詳しい内容や、自衛隊の方々の努力、機雷のことについてたくさんのことを学びました。

私は今、「明日はあたり前にくる、友達に会える、家族とおなじ食卓を囲める」そんな風に感じていました。しかし、そんなことは、なにもあたり前ではないということ、それがどれだけ幸せなのかということを広島に行って考えることができました。

世界には残念ながら戦争をしている国があります。そんな国の人たちは、今私達と同じように笑顔で笑えているのでしょうか？明日があたり前のようにくる確証はあるのでしょうか？私は、そんな人の命を簡単に奪ってしまう戦争がなくなってほしいところから思っています。

そして、そんなことが過去に起こったことを絶対に忘れてはならないし、きちんと後世に伝えていくべきだと思います。

とてもやさしい友達に出会えて、学ぶ機会をもらえて、明日を無事に迎えられる笑顔でいられる大切さを教えて貰えて本当にこの貴重な平和に旅に参加して本当に幸せだと思っています。

これからも、出会えた友達と幸せに生きていられる毎日を大事にして、何事にも挑戦し、今回の広島で学んだことを大事にしていきたいと思いました。



あたりまえじゃない笑顔